



## プレイセンターの実現をめざして

北海道 恵庭市子ども家庭課長 いのぐち 猪口 信幸

### 恵庭に熱い視線が！

恵庭は、新千歳空港と札幌市の間に位置し、東京23区の約半分の面積に人口

6万8000人が暮らす長閑な花の美しいまちです。隣町の道都札幌は、人口190万を抱えながら、合計特殊出生率が遂に1.0の大台を割り込み、子育て苦戦のまちな様相を呈しています。

今、札幌を含めた近隣のまちから、子育てに関心のある人たちの熱い視線が恵庭に注がれています。恵庭が、子育てを核心戦略に位置づけたまちづくりに挑戦を始めたからです。

それは、2005年11月の恵庭市長選挙で“子どもたちの問題こそ最重要の地域課題”としたマニフェストを掲げた中島興世新市長が誕生したことから始まりました。

### ミッションはプレイセンター

“子育てが密室で行われ、多くの親が不安やストレスに苛まれ、社会的な支援を必要としている。子どもが健やかに成長するまちづくりの実現こそ、恵庭の最も先鋭化した課題である。子育てをとおして、家族と一緒に成長するまちを実現したい。そのために、プレイセンターをやり抜く！”市長のプレイセンターへの意志は明快でした。

昨年の春の人事異動で、私は図書館から現在の子ども家庭課に異動になりました。市長の私への最大のミッションは勿論プレイセンターの実現です。そのような市長のミッションを受け半年が過ぎた頃、自由遊びの組み立ての方法や、プレイセンターを建設するための間取りや各部屋の使い方、衛生問題など課題の多い砂場の設置方法や外遊びと室内のつながりなど、だんだん分からない部分がはっきりしてきました。

それらを基に市役所内の調整や、関係の委員会や諮問機関への提案、議会各会派への説明や調整など、想像以

上に体力と気力を必要とする仕事になりました。これを持ち切るために、多くの人に納得してもらえる理論も必要ですが、何よりも湧き上がるような使命感と情熱がないと乗り切れないと思いました。

### ニュージー行きが実現

百聞は一見にしかず、これは行くしかないと思いました。昨年12月、日本プレイセンター協会に、ニュージー



加奈Parr-Whalleyさん

ランドのプレイセンターを見に行きたいと相談しました。するとすぐに協会から、オークランドの加奈 Parr-Whalleyさんがみえてくるとの情報をいただき、協会主催の講習会でお会いすることができました。本当にラッキーな出会いでした。話はトントン拍子に進み、この3月には加奈さんに大

変お世話になって、オークランドのパーケンヘッド・プレイセンターの視察が実現しました。

更に協会から、ハウィック・プレイセンターの木下伸恵さんと調整をしていただき、一度に2カ所の視察が実現しました。2カ所を見られた意味はとても大きなものでした。建物の外観は違うのですが、使い勝手がとても似ていて、どちらも落ち着いた馴染みやすい雰囲気でした。1日の流れもよく似ていました。

基本となる共通部分とアレンジができる部分、外遊びの大切さ、それと私たちが建設を考えていた施設のイメージの修正が必要なことなどが分かり、大変貴重な経験となりました。

### オークランドのプレイセンター

オークランドで、2カ所のプレイセンターの視察の他

に、遠足やガレージセールにも参加できました。市内に1カ所しかないのプレイセンターショップも見学できました。大変内容の濃い視察になり感謝しています。

3月	視察内容
21日(水) 22日(木)	■バーケンヘッド・プレイセンター訪問 (セッション参加)
23日(金)	■同プレイセンター遠足/オークランド動物園 ■プレイセンターショップ視察
24日(土)	■同プレイセンター/ガレージセール
26日(月)	■ハウィック・プレイセンター訪問 (セッション参加)

お世話になった方

- ◆ Birkenhead Playcentre 加奈 Parr-Whalleyさん
- ◆ Hoecik Playcentre 木下 伸 恵 さん

セッション

その日の担当のお母さん方が、準備のために9時頃から集まってきます。砂場のカバーを外したり、水遊びの用具のセット、大エコーナーやお絵かきコーナーのセッティングなどをします。9時半頃には、その日のメンバーが揃ってきます。遊びのコーナーには、担当のお母さんがいます。子どもは色々なコーナーで遊びます。子どもは砂場や水遊び、絵本がとても好きです。フェイスベインティングやスライムなども人気です。

10時半頃からおやつの時間です。おやつは自分で持ってきます。おやつの時間でも外で遊んでいる子、積み木をしている子もいます。お母さんたちは、コーヒーを片手に一緒に集っています。おやつ担当のお母さんは、絵本を読んだりギターで歌ったりしながら、子どもたちとの時間を楽しんでいます。おやつが終わって、子どもたちが遊びのコーナーに移りだしても、残った何人かの子どもを相手に絵本を読んだりしています。時間がゆったりと自然に流れていきます。



バーケンヘッド

外で絵本

11時半頃になると、お母さん方は片付けを始めます。3~4歳の子どもたちもバケツを運び、拭き掃除などを一生懸命やっています。ニュージーの子は、後片付けがとても好きです。片付けがある程度終わると、その日の当番のお母さん方が集まって反省会をします。

ガレージセール

2千NZドル(約16万円)を超える売り上げです！その本気に圧倒されました。当日近くの学校でも大がかりなガレージセールがあるため、学校が開く前が勝負の時間とばかりに朝6時半集合。本当に本気です。バーケンヘッ

ド・プレイセンターでは大型遊具の取り替えを計画していて、5万NZドル(約400万円)が必要です。補助金を貯めて買うには5年以上かかるので、バザーで2年計画の購入をめざしているとのことでした。



プレイセンターのメンバーはお揃いの紺色のTシャツを着て頑張っていました。胸の“play is vital for children's development”、背中に“ask me about playcentre”の文字が誇らしげでした。

プレイセンターの魅力 / 子どもの笑顔



ハウィック

外遊びも大切

プレイセンターのお母さん方も、日本と同じで子育てに一生懸命です。そして、とても楽しそうに生きていました。プレイセンター

の帰りに、用事があるからと子どもを預かってもらったり、預かったり、何家族かで一緒に昼食に行ったりしていました。家族の交流の様子に、プレイセンターの魅力を垣間見ることができました。

子どもたちは“家ではできない遊びができる”と大喜びで、思い切り遊んでいます。お母さんたちも居心地が良さそうで、学校のサークルのような雰囲気です。

恵庭からの発信

来年1月26日には、加奈Parr-Whalleyさんが恵庭で開催される「子育てフォーラム」に来てくれます。テーマは「プレイセンター」です。

恵庭の取り組みが、全国の子どもたちの福音となることを願っています。イギリスから始まったブックスタートが、日本を経てアジアの各地に広がったように、プレイセンターが多くの子どもと親の希望と勇気を育ててほしいと思います。

■花のまち 道から見てきれいな庭を表彰する市民活動など、恵庭は市民による花のまちづくり運動が盛んなまちです。市民団体や地域が、総理大臣賞を始め様々な賞を受賞しています。

■ブックスタート 地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者を対象に絵本などが入ったブックスタート・バックを手渡す子育て支援事業。1992年に英国で始まり、2000年に恵庭市が本格実施をはじめ、全国各地に広がり、アジアの国にも飛び火をしています。